

# 2050年のまいづる

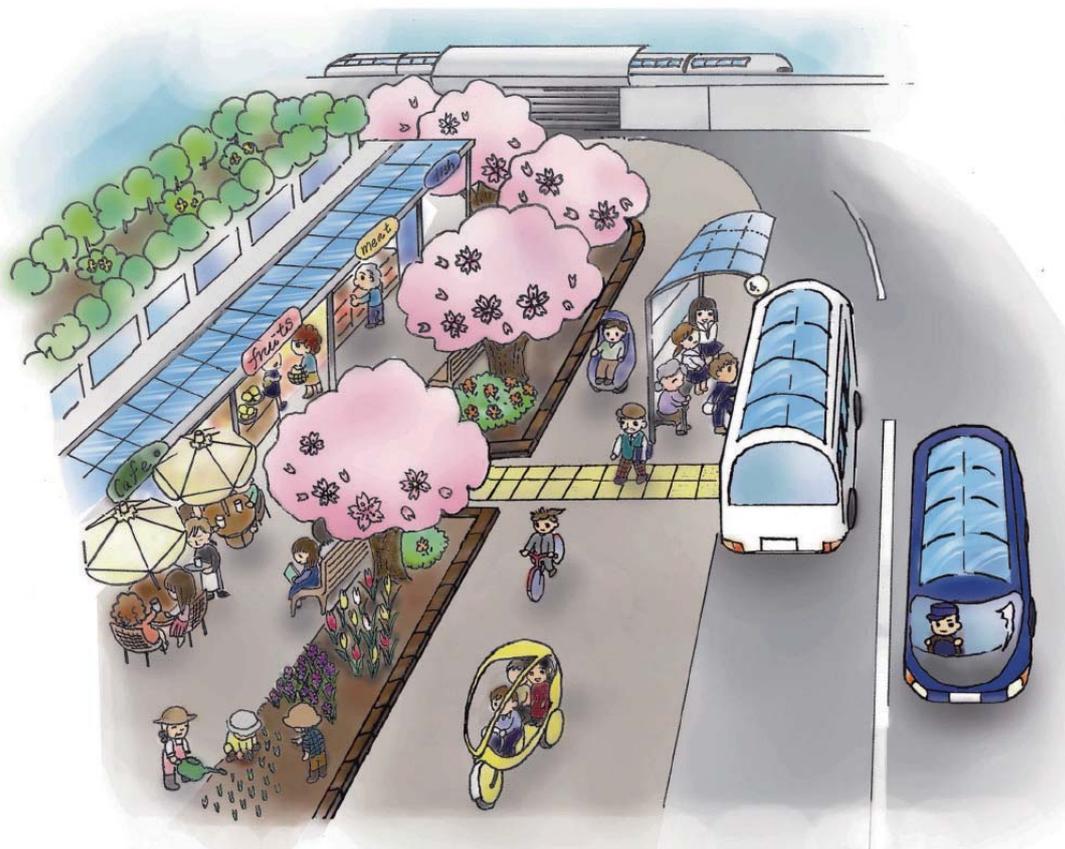
2050年のまいづる

2050年の舞鶴へご案内します。

この半世紀でいちばん変わったのは、環境と健康に配慮した市民のライフスタイルです。たとえば通勤や買い物は、自転車や徒歩での移動が普通になりました。

商店街はコンパクトシティのまちづくりで、駅周辺の中心市街地に賑わいが戻ってきました。ソーラーバスの環状線が整備され、どこへ行くのも便利になり、騒音や排気ガスのないクリーンなまちになりました。

どこにもごみ一つ落ちていないのは、昭和の頃から続けられている市民の美化活動の成果です。近頃はゼロエミッション※の成果で、ごみ自体もめっきり減ってきました。

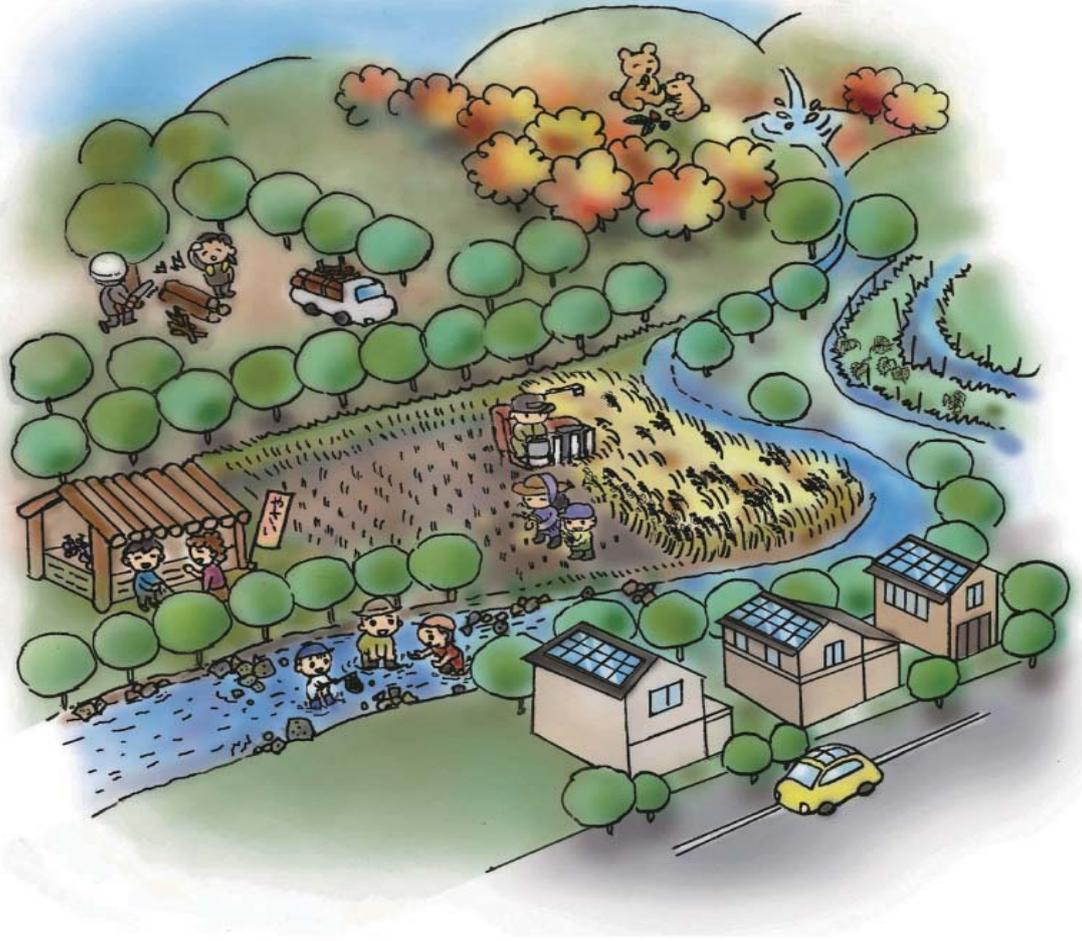




舞鶴湾には、市民の取り組みによって藻場※が再生しました。海の水質と生物多様性※を守ってくれています。様々な技術開発により、海は本来の美しさを取り戻しました。

漁業は水産資源や海洋環境への取り組みを続けています。トリガイやカキの養殖なども盛んに行われ、食やレジャーを求め観光客で賑わっています。

工場や事業所は、はやくから省エネ・再エネ対策に取り組み、安定経営で活気を取り戻しています。環境配慮のものづくりも盛んです。



山はきれいに手入れされ、田畑は美しく耕されています。里地里山の保全は、生物多様性※の保護につながりました。地産地消※の仕組みが世の中にゆきたわり、間伐※材や竹材はバイオマス燃料※に利用されています。食料自給率も改善されました。

メダカやアユなどがどの川でもたくさんみられるようになりました。森林保全や、地域の河川清掃、環境にやさしい農業やものづくりを進めてきた、市民や事業者、みんなの努力の賜です。

お父さんやお母さん、お爺ちゃんやお婆ちゃんの世代の人たちが、環境にやさしいまちづくりに取り組んでくれたからこそ、舞鶴は、快適で、自然豊かな、省エネの町になりました。「この取り組みを続けて、さらに住みやすい舞鶴を次の世代に引き継がなきゃ」と感じています。

地元の木材を使って建てられた我が家。外は木枯らしが吹いていますが、断熱がしっかりしていて窓も二重なので、家の中は階段も洗面所も、どこも暖かです。

一家団欒で夕食。食卓に並ぶのは、みずみずしい旬の野菜やおいしいご飯、ピチピチ新鮮な季節の魚、みんな舞鶴産です。

自然エネルギーはどの家でも普通に使われています。太陽光発電と蓄電設備のおかげで、冷暖房も給湯も照明も、みんな自給自足です。夕食のあとはお風呂。おひさまの力で温まったお湯だと、なんだか体も温まりやすいです。

